

2020年度事業方針（2019年度実績）

2022/4/22

・・・2019年度実績と反省・・・

理事長 神山康洋

- ① T T A 予算この3年間赤字予算案で承認してきたため。実績も毎年赤字決算で終わっていた。このため毎年繰越金が減少し、国体の準備金の準備ができなかった。今年度から登録費¥600を¥1000に値上げをし登録費の収入が約106万円増えたが昨年比競技運営委員会（-48万円）、ジュニア委員会（-20万円）の収益悪化、県補助金増によるT T A負担金の増（27万円）強化委員会のT T A負担金増（22万円）で相殺されしまいました。来年度マイナス予算にしないための方策を検討した。
- ② 2020年の栃木国体にむけ総合グラウンドの6面の照明設備人口芝の張替えは2020年月末で終了し国体の準備ができた。また、屋根のクラブハウスは2020年7月から建設が始まる予定。人口芝の張替えも2021年3月末には終了予定です。また国体練習会場は宮原運動公園（人口芝6面）2021年3月末完成と帝京大学（人口芝8面）が決定した。
- ③ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響をうけ県ジュニア選手権、県実業団テニスダブルス大会、全日本都市対抗県予選、県春季選手権ダブルス大会、県指導者研修会の開催中止を決定した。3蜜を避けるため、今年度4/19の総会では中止し書類での審査を行っています。

・・・2020年度事業方針・・・

- ① 2020年は健全な収支を実現していく。国体準備金の用意。一般、ベテラン 春季大会以後大会参加料UPするSは¥400、Dは¥900、クラブ対抗は¥2000、実業団登録費¥5000UP（2021年～）県補助金のT T A負担額の大幅な減額。国体準備金として分担金の検討。各地区協会に¥300×県登録者数2021年と2022年限定を検討。地区大会のT T A公認大会の公認料の検討。
- ② 新型コロナウイルス感染症拡大が見通せない為、各委員会の事業中止、延期が考えられ事業収入の減少があるので、更なる経費削減に努力をお願いいたします。
- ③ 2022年栃木国体の上位入賞を目指し選手強化策で、栃木県スポーツ専門員に森崎可奈子（栃木県スポーツ協会）と川橋勇太（栃木県スポーツ協会）が加わり今後の活躍が期待できる。鹿児島国体では男子ベスト4位、女子はベスト8位以内を目指す。
- ④ 栃木国体にむけSCUの募集及びC級審判の取得、SCU養成の実施。
- ⑤ 2021年は宇都宮市で開催予定の全日本都市対抗テニス大会にむけ、第44回全日本都市対抗テニス大会の視察（2020/7/16～7/19）（4/15に延期が決定）三重県四日市市。第75回国民体育大会テニス競技会の視察（2020/10/2～10/8）鹿児島県鹿児島市。